

# 自治労連第42回定期大会

10月3日、自治労連第42回定期大会が開催されました。当初は8月に福岡県で予定されていましたが、コロナ禍のなか、初めてWeb開催となり、大阪自治労連の代議員はエル・おおさかに集まって大会に参加しました。大阪会場からは、大阪自治労連の荒田副委員長と大阪府職労の小松委員長が発言し、討論に参加しました。



大会に参加する大阪の代議員

# コロナ禍でさらに求められる 公務公共の役割

コロナ禍の中、現場の声を聞くことを重視。当局対応も強化し、コロナに関わる職員の拡充や特殊勤務手当の引上げなど、緊急の条件整備も実現した。取り組みを通じて、34人の保健師・保健所職員とLINEでつながり、現場の声をツイッター等で発信し、府民からの応援メッセージもたくさん寄せられている。その応援コメントを現場に返していくことで、自分たちの声があると感じてもらおう取り組みを進



**署名集めや職場の声を発信**  
大阪府職労執行委員長 小松 康則

めている。また、コミュニティ・オンラインの手法をいかし、戦略をつくり、保健師・保健所職員を増やすキャンペーンも開始した。オンライン署名もスタート。これまでの動員型・年間スケジュール型の運動ではなく、現場の労働者、当事者が立ち上がるための運動をつくっていききたい。オンライン署名にご協力をお願いします。



荒田副委員長と訴える守口学童の原告団

## 「都構想」住民投票に支援を

大阪自治労連副執行委員長 荒田 功

昨年4月に守口市から学童保育の業務委託をされた共立メンテナンスは、今年3月末に指導員13名を雇い止めた。怒りと誇りを力に10人の指導員が解雇撤回と職場復帰をめざして裁判闘争に立ち上がっている。全国からの支援をお願いしたい。

この事件は、自治体公共サービスの備け口として、地方自治と公務労働を破壊する大企業の社会的責任を問う全国的な取り組みが必要であり、自治労連の中心課題とするよう要望する。11月1日に大阪市の廃止と特別区設置を問う2度目の住民投票が行われる。立場をこえて「大阪市なくすな！」の共同を掲げていく。「都構想」は憲法と地方自治、民主主義破壊の起爆剤であり、阻止しなければならぬ。全国からの支援をお願いしたい。

# 「都構想」住民投票

「都構想」……よくわからなく、「どっちつかず」か迷っている」という声を多く聞きます。「説明不足だ」という人が半数以上。そんな人に読んでほしいパンフレットです。また、学習会でも活用できるように、3つの焦点①「都構想」よりコロナ対策、②「都構想」ってなんなん？③「都構想」をやめてこそ大阪市はよくなる、とまとめていきます。



よくわかる(ハッ)「まるわかりパンフ」



# 「まるわかりパンフ」で100万人対話を成功させよう!

## 住民投票の公正・中立を求め 大阪市に抗議と要請

大阪府が発行した「特別区設置協定書」の説明パンフレットは、「都構想」推進の一方的な主張が書き並べられています。1億数千



副首都推進局に「公正・中立」を要請

万円をかけて、大阪市内に全戸配布されたこのパンフは、住民投票を実施する大阪市の「公正・中立」が守られていません。「大阪市をよくする会」と「明るい民主大阪府政をつくる会」は9月30日、大阪府に対して住民投票広報のあり方に対し、厳重に抗議しました。また、大阪市の住民説明会も反対意見や「都構想」のデメリットの説明がされていません。こんなやり方では住民投票で正しい民意は反映されません。

## 自治労連 桜井委員長が激励に 本部から

10月10日、自治労連本部から桜井委員長をはじめ5人が大阪自治労連を激励訪



激励する自治労連の桜井委員長(右) (左は大阪自治労連の有田委員長)

問しました。平野区などで「大阪市廃止反対」「都構想ストップ」を訴え、桜井委員長は「自治体の役割は住民の福祉の向上だが、これが都構想から欠落している」「コロナ禍で苦しんでいる時に、住民投票を強行する維新に住民生活は語れない」として、住民投票で反対の意思を示すことを呼びかけました。

# いのち・暮らしを守る 地方自治をつくる秋

### 今月のキーワード

Web

Web (World Wide Webの略)とは日本語でクモ(蜘蛛)の巣を意味しています。それがワールドワイドに広がり、情報と情報がまるでクモの巣のように網目状に張りめぐらされた世界をイメージしています。Webとインターネットの違いは、インターネットはコンピューター同士をつないで提供される情報通信技術。Webだけでなく、電子メールやIP電話などの仕組みもインターネットなので、Webはインターネットの技術を利用したシステムの一つです。

### 今月のキーワード

中秋の名月

2020年の中秋の名月は10月1日でした。平安の貴族たちは、直接には月を見ずに池や盃(さかずき)に映った月を楽しんだといわれています。なんと風流ですね。お月見で飾るすすきは、古くから「神の依り代(よりしろ)」と考えられていました。依り代とは神様が宿るところという意味です。団子は収穫したお供え。お月見は「神様に対して今年の収穫を感謝し、来年の豊作をお願いする」という信仰的な行事です。